

春風秋霜 7月号

令和2年7月1日
島田市教育委員会より
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 学校便りを読んで

毎月の学校便りが教育委員会に送られてきます。私をはじめ教育委員で読ませていただいています。多くの学校が、休校中の学校の様子を知らせ、子供たちとのつながりを大切にしていることが伝わってきます。

島二中の6月号には、「新型コロナウイルス感染という世界的な危機に対しては、国家間の主義や主張の違いを超えて協力しなければならないことや、100年に1度経験するかしないかの経験をしたからこそ、世界と日本が今後歩むべき未来を描ける」と子供たちに伝えていきます。

五和小学校の5月号には原国子さんの「山」という詩を掲載し、「だいじょうぶ。明るい未来が待っているよ。共にがんばっていこう。」というメッセージを送り、川根中学校は、コロナを言い訳に思考停止になるのではなく、「新しい発想で新たな文化を創り上げていこう」と学びと成長の大切さを呼びかけています。

校長先生方の強い思いに、感謝するとともに安心しました。

追伸

秋田教育委員から、「学校のHPを見ると、先生方が生徒になってALTの授業を受けている様子や、今日はこういうことを学校でやっていたという先生の様子を発信している学校が幾つもあった。そういうところが子供と学校の間につながりになり、親としても学校が身近に感じられて安心できた」と話してくれました。つながりを大切にした学校の取り組みに感謝します。

2 第2波・第3波の新型コロナウイルス流行に向けて

学校再開から1ヵ月余が過ぎました。再開を喜んでいた子供たちにも疲れが表れる頃だと思います。子供の様子をよく観察し、気になる場合は早めの対応をお願いします。

島田市では感染者が無く、登下校時や運動時のマスク着用を止める学校も現れています。熱中症対策もあり、場に応じた対応が必要だと思います。

各学校は、休校中の学習の遅れを取り戻すため、様々な工夫をしています。長期休業期間の短縮の他、カリキュラム・マネジメントによる授業の再編や水曜日を6時間にするなど、本年度中に学習の遅れを解消できる体制が取れたことに感謝しています。

しかし、新型コロナウイルスの第2波・第3波が襲来すると、現在の計画に無理が生じ、未履修や来年度への繰り越しが生じかねません。教科書会社からは小学校6年と中学校3年生用の「学習活動の重点化に資する年間指導計画参考資料」が公開されました。他学年も今後公開される予定です。これらを参考に、授業の効率化・重点化を図り、感染の第2波・第3波に備えて欲しいと思います。

平成21年度に発生した新型インフルエンザでは、2度の学年閉鎖をした学校がありました。当時は1回が5日間の閉鎖でしたが、今回のコロナウイルスではもう少し長い期間が必要になるでしょう。先を見越して授業を進めるようにお願いします。

3 非接触型体温計の寄贈について

島田ロータリークラブから非接触型体温計が市内小中学校と教育センターに 44 台寄贈されました。幼稚園等に寄贈されたものと合わせ、合計 80 台もの体温計が寄贈されています。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各学校から非接触型体温計の要望が強まったものの、品薄で手に入れることができませんでした。それを知ったロータリークラブが機器を購入し寄贈してくれました。

島田ロータリークラブは、これまでも教育センターに大型テレビやタブレットを寄贈し、市内の特別支援学級にも iPad を寄贈しています。毎年行っていただいている寄贈に感謝するとともに、有効に活用していただきたいと思えます。

4 観察カード見て

「トマトの花は同じ方向に出る」と言われます。そのため、支柱をする時に気を付けないと、花と支柱がけんかをしてしまいます。植物は葉や花の着き方などに規則性があり、その規則性を知ることが栽培には欠かせません。

学校訪問をすると、子供たちの観察カードを見ることがあります。観察カードは見たままを描くことが求められますが、何の植物か分からないものがあります。それは、植物の規則性を見逃しているためです。観察カードを描く時は、植物のもつ規則性に目を向けて欲しいと思えます。



実を着けたミニトマト

肘かけ椅子

中野 和志 教育部長

「梅雨の晴れ間のひととき」

先日、日頃の運動不足解消のためにリバティを散歩しました。

久しぶりに見た博物館先の河川敷広場の風景は、ハルシャギクがほぼ一面に咲き乱れ黄色の絨毯のようでした。普段ですと見過ごすのでしょがリバティにはウマオイが跳ね、黒アゲハチョウが舞い、柳の木には大きなカタツムリが梅雨の時期を喜んでいるかのように這い回っていました。

植物をはじめ様々な生き物がここには存在し生命の息吹が満ち溢れています。

人間社会は新型コロナウイルスに翻弄されているというのに、全くの違う空間を感じながら、ふと自然の生き物にとって人間は新型コロナウイルスのような存在なのかな、この生き物たちは人間とうまく共存しているのかな、そして今回の新型コロナウイルスは人間の驕りがもたらしたものではないのかな。

そんなことを考えながら歩いていると、燕が勢いよく地面すれすれを滑空して飛んでいきました。

明日はまた雨かな。